

## 令和3年度 養成所評価

評価基準 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

	自己評価	学校関係者評価
I. 教育理念・目標	4.0	4.0
	教育理念は明確である。地域に貢献できる学校経営の中長期ビジョンを明確にする	教育理念は明確であり、本年度の学校目標も適切に定められている。目標達成に向けて、努力しており、国家試験合格、就職率に反映されている。
II. 学校運営	3.8	3.8
	働き改革に取り組み超過勤務は削減しているが、根本的な業務改善は行っていない。また経営状況・情報管理システムに合わせたIT環境の整備を行う。	国立病院機構付属養成所の運営にかかる方針に則り適切に運営されている。教員の欠員状況を改善されたい。
III. 教育活動	3.7	3.8
	COVID-19感染予防を行いながらすべての教育計画を実施した。授業評価の講師へのフィードバックを早くに行い学生へ改善する。	COVID-19感染対策をふまえながら、特に実習に関する調整が柔軟になされている。授業評価の改善へのシステム作りを推進されたい。
IV. 学修成果	(国試結果発表後評価)	3.8
	国家試験不合格者1名であった。不合格者の学習の分析と対策を立てる。卒業生の動向調査を行っていないため、今後実施に向けた計画を立てる。(内容はR2年度最終)	最終学年のカリキュラム評価はほとんどの項目が3.4~3.8/4で学生の満足度は良好である。就職率も高く、国家試験の合格も全国平均を大きく上回っている。
V. 学生支援	3.7	3.8
	感染防止のためマスクの着用、黙食を徹底している。昼食の確保に関する学生の要望には病院売店や業者の販売を行った。卒業生支援の里帰り企画は継続して行う。	コロナ禍のなかで、担任制を3人に増やし、きめ細やかに対応している。最終学年のサポートに対する満足度は3.7/4であり満足度は高い。
VI. 教育環境	3.3	3.6
	感染防止のため体育館で講義を行う際の映像や音響環境の改善が必要である。オンライン授業の実施における不具合に対応する。	リモートでの授業に対応できるように改善している。対面とリモートによる授業は継続していく可能性が高く更に整備されたい。
VII. 学生の受け入れ募集	4.0	4.0
	教員の高校訪問等、募集活動を継続し、学校説明会参加者は昨年度の約2倍である。指定校の教員向け説明会やホームページの情報更新を行い学生確保に繋げる。	高校訪問、説明会、ホームページの広報など、募集活動継続の結果、多くの参加があり学生の定員が確保できている。
VIII. 財務	3.7	3.8
	地域医療介護総合確保基金事業費補助金を獲得できている。不足分は母体病院の補助を受けている。必要な教材は計画通りに試行する。	適切に対応できている。
IX. 法令等の遵守	4.0	4.0
	指定規則を遵守し運営している。自己点検自己評価を中間でも行いタイムリーに改善するよう取り組んでいる。	適切に対応できている。
X. 社会貢献・地域貢献	3.3	3.5
	学生自治会活動はCOVID-19の感染拡大により制限されている。しかし、学校行事をタイムリーにホームページや地域情報発信紙を更新し地域へ情報発信をしている。	コロナ禍の中、学生のボランティア活動を支援し、公開講座の実施などの取り組みは評価できる。

## 令和3年度 総合評価

### 1. 教育課程に対する取り組みと評価

国立病院機構および母体病院の理念に基づき、目標を意識した取り組みがなされていた。COVID-19感染拡大が憂慮される中、目標達成と感染対策双方から、課題解決に向けて教職員が団結して取り組んだこと、特に実習に関する調整は大いに評価できる。

#### 1) 感染対策と教育計画のマネジメントについて

COVID-19感染拡大のため、実習施設の確保が困難な中、関連病院等の協力、夏季休暇などを実習期間に充てるなど、的確な判断と柔軟な対応、調整を行い、ほとんどの実習を臨地実習として体験できたことは評価に値する。

2) 国家試験は1名が不合格であったが、全国平均を大きく上回る成果であった。きめ細やかなサポート体制で支援を行っていた。

3) 神奈川県内の関連施設への就職率が大きく伸びた。実習施設の調整により、関連施設で臨地実習を行なうことができた点が、学生の就職への動機づけに影響していると推測された。

4) 学生募集に関しては、リモートなども利用し、昨年度を大きく上回る参加者を得ていた。新規大学が増加する中であって、入学定員を着実に確保できたことは、この努力に負うところも大きいと考えられる。

5) 3年次の最終カリキュラムに関する満足度調査において、すべての項目が3.2-3.9/4であり、満足度は高かった。特に教職員に対する項目が2.8から3.5/4に大きく向上した。コロナ禍にあって、教職員の努力が評価に影響しているものと推察された。

### 2. 今後の課題

1) 3年次の最終カリキュラムに関する満足度調査において、昨年度と比べ低い項目は「わかりやすい授業が多い」が、昨年度は3.8/4であったが、今年度3.2の低値を示していた。他の学年も、3.0-3.1/4と低い評価となっており、対面での学習時間の減少が影響しているものと考えられる。リモート学習のメリットを生かした更なる教材研究や教授方法の工夫が望まれる。

2) 休学している学生数が多い学年に対する教育的指導が望まれる。特にコロナ禍に入った年の入学でもあり、様々な適応に多くの努力を要する年でもあったと想像される。学習指導だけでなく、キャリア相談、心理相談など多面的なサポートを要するものと考えられる。

3) ICTに対して、様々な対策が取られて改善してきている。今後もコロナ禍の状況は続きリモート学習は必須であること、新カリキュラム改正により、ICT教育が強化されたことをふまえて、更なる整備を期待したい。